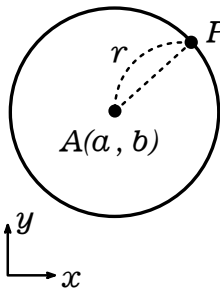


今回と次回は「円」のお話です。前のテーマ「点と直線」と同様、(円という)図形を数式で表したらどうなるか？逆に、数式を見て、『これは、どういう図形を表してるのか？という視点を持って、受講して下さいね。大切なのは、【図形】と【数式】との対応をきちんとつかむことです！

❖ 円の方程式 ❖

円…平面上で、定点からの距離が一定である点の集合
(定点から一定距離にある点の集合)
定点→中心という。一定距離→半径という。

[中心 $A(a, b)$ ，半径 r の円]の方程式は？



x, y の関係式は？

$$AP=r$$

$$\Leftrightarrow \sqrt{(x-a)^2+(y-b)^2}=r$$

$$\Leftrightarrow (x-a)^2+(y-b)^2=r^2$$

……(表現 I)

[円の問題]の主人公は、中心&半径です！

(I)を展開すると、

$$x^2+y^2-2ax-2by+a^2+b^2-r^2=0$$

$$\therefore x^2+y^2+Ax+By+C=0 \text{ ……(表現 II)}$$

$$(-2a=A, -2b=B, a^2+b^2-r^2=C \text{ とおいた。})$$

[円の表現]には、(I)と(II)の2種類があります。

例題 次の各問に答えよ。

- (1) 円 $x^2+y^2+2x-4y+1=0$ の中心の座標と半径を求めよ。
- (2) 方程式 $x^2+y^2+2ax-4y+2a^2+a=0$ が円を表すように、 a の値の範囲を定めよ。

解 (1) $x^2+y^2+2x-4y+1=0$ ←←← (表現Ⅱ)
 $\Leftrightarrow (x^2+2x)+(y^2-4y)+1=0$
 $\Leftrightarrow \{(x+1)^2-1\}+\{(y-2)^2-4\}+1=0$ ←←← (平方完成)
 $\Leftrightarrow (x+1)^2+(y-2)^2=4$ ←←← (表現Ⅰ)
 \therefore 中心は $(-1, 2)$, 半径は 2 (ans)

中心 (a, b) , 半径 r の円の方程式 $(x-a)^2+(y-b)^2=r^2$ (表現Ⅰ) (再掲)

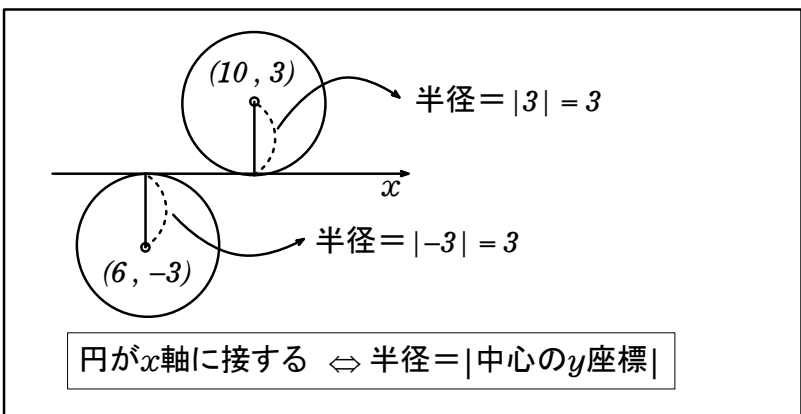
(2) $x^2+y^2+2ax-4y+2a^2+a=0$ が円を表すとき,
 a の範囲は?

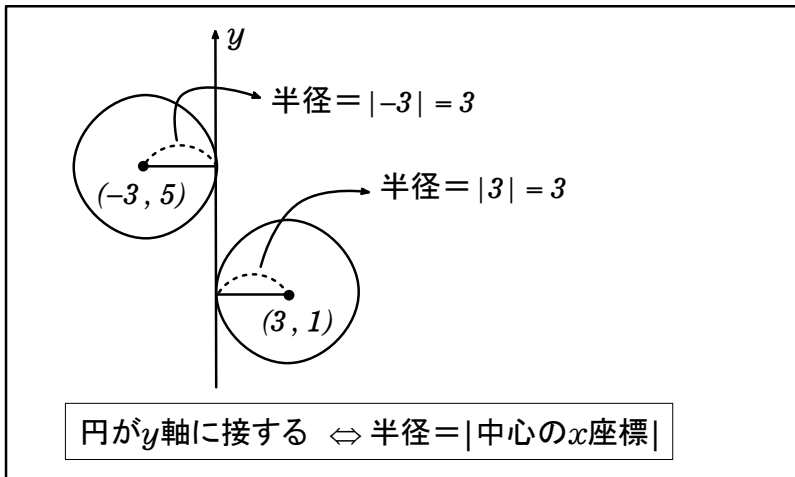
$x^2+y^2+2ax-4y+2a^2+a=0$
 $\Leftrightarrow (x^2+2ax)+(y^2-4y)+2a^2+a=0$
 $\Leftrightarrow \{(x+a)^2-a^2\}+\{(y-2)^2-4\}+2a^2+a=0$
 $\Leftrightarrow (x+a)^2+(y-2)^2=-a^2-a+4$
 これが円を表すための条件は, $-a^2-a+4 > 0$
 $\therefore a^2+a-4 < 0 \quad \therefore \frac{-1-\sqrt{17}}{2} < a < \frac{-1+\sqrt{17}}{2}$ (ans)

中心 (a, b) , 半径 r の円の方程式 $(x-a)^2+(y-b)^2=r^2$ (表現Ⅰ) (再掲)



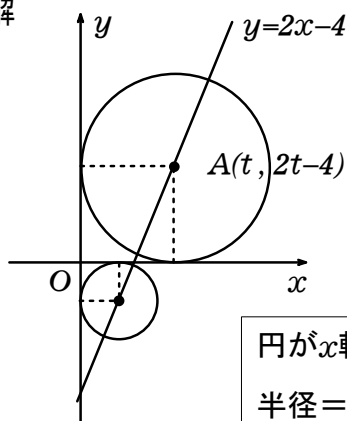
次の例題に入る前に, ちょっとコメント





例題 中心が直線 $y=2x-4$ 上にあつて、 x 軸、 y 軸の両方に接する円の方程式を求めよ。

解



円の主人公は
[中心]&[半径]です。

中心が $y=2x-4$ 上にあるので、中心 $A(t, 2t-4)$ とおける。……①

円が x 軸、 y 軸に接するので、
半径 = |中心の y 座標| = $|2t-4|$,
半径 = |中心の x 座標| = $|t|$
……………②

②見て、 $|2t-4|=|t| \Leftrightarrow 2t-4=t \text{ or } 2t-4=-t$

$|A|=|B| \Leftrightarrow A=B \text{ or } A=-B \Leftrightarrow A=\pm B$ (復習)

$\Leftrightarrow t=4 \text{ or } t=\frac{4}{3}$

$t=4$ のとき、中心 $A(4, 4)$, 半径 = 4

$t=\frac{4}{3}$ のとき、中心 $A\left(\frac{4}{3}, -\frac{4}{3}\right)$, 半径 = $\frac{4}{3}$

以上より、求める円の方程式は、

$(x-4)^2+(y-4)^2=16$, $\left(x-\frac{4}{3}\right)^2+\left(y+\frac{4}{3}\right)^2=\frac{16}{9}$ (ans)

中心 (a, b) , 半径 r の円の方程式
 $(x-a)^2+(y-b)^2 = r^2$ (表現 I) (再掲)



例題 次の各問に答えよ。

(1) 3点 $A(4, -1)$, $B(5, -8)$, $C(-4, -5)$ を通る円の方程式を求めよ。

(2) 3直線 $x+3y+6=0$, $x-y+2=0$, $5x+3y-6=0$ で囲まれた三角形の外接円の方程式を求めよ。

解(1) 求める円の方程式を $x^2+y^2+kx+ly+m=0$ とおく。

中心や半径が不明のときは、表現Ⅱで設定しよう。

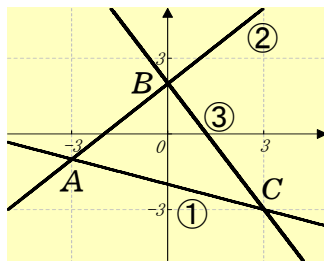
これが、 $A(4, -1)$, $B(5, -8)$, $C(-4, -5)$ を通る条件は、

$$\begin{cases} 17+4k-l+m=0 \\ 89+5k-8l+m=0 \\ 41-4k-5l+m=0 \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} k=-2 \\ l=10 \\ m=1 \end{cases} \quad \begin{array}{l} \text{連立方程式を} \\ \text{解くのは各自。} \end{array}$$

よって、求める円の方程式は $x^2+y^2-2x+10y+1=0$ (ans)

(表現Ⅰに変形して、 $(x-1)^2+(y+5)^2=25$ でもOK)

(2) $x+3y+6=0$ ①
 $x-y+2=0$ ②
 $5x+3y-6=0$ ③



とおくと、

①②の交点Aは $A(-3, -1)$

②③の交点Bは $B(0, 2)$

③①の交点Cは $C(3, -3)$

$\triangle ABC$ の外接円は、3点 A, B, C を通る円である。

これが、求める円です

求める円の方程式を $x^2+y^2+kx+ly+m=0$ とおく。

これが、 $A(-3, -1)$, $B(0, 2)$, $C(3, -3)$ を通る条件は、

$$\begin{cases} 10-3k-l+m=0 \\ 4+2l+m=0 \\ 18+3k-3l+m=0 \end{cases} \Leftrightarrow k=-\frac{1}{2}, l=\frac{5}{2}, m=-9$$

連立方程式を解くのは各自。

よって、求める円の方程式は $x^2+y^2-\frac{1}{2}x+\frac{5}{2}y-9=0$ (ans)

(表現Ⅰに変形して、 $\left(x-\frac{1}{4}\right)^2+\left(y+\frac{5}{4}\right)^2=\frac{85}{8}$ でもOK)

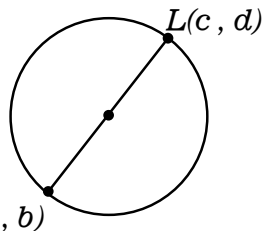
例題 2点 $K(a, b)$, $L(c, d)$ を直径の両端とする円の方程式は $(x-a)(x-c)+(y-b)(y-d)=0$ であることを示せ。

解 [円の問題]の主人公は、中心&半径です。(再掲)

求める円の中心は、2点 K, L の中点で、 $\left(\frac{a+c}{2}, \frac{b+d}{2}\right)$

半径は、 $\frac{1}{2}KL = \frac{1}{2}\sqrt{(a-c)^2+(b-d)^2}$

したがって、この円の方程式は



$$\left(x - \frac{a+c}{2}\right)^2 + \left(y - \frac{b+d}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}\{(a-c)^2+(b-d)^2\}$$

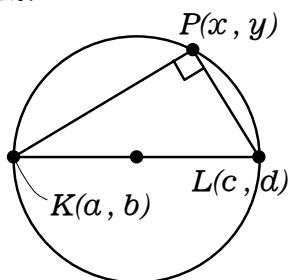
$$\begin{aligned} \Leftrightarrow x^2 - (a+c)x + y^2 - (b+d)y + \frac{1}{4}\{(a-c)^2+(b-d)^2\} \\ = \frac{1}{4}\{(a-c)^2+(b-d)^2\} \end{aligned}$$

$$\Leftrightarrow x^2 - (a+c)x + y^2 - (b+d)y + ac + bd = 0$$

$$\Leftrightarrow \{x^2 - (a+c)x + ac\} + \{y^2 - (b+d)y + bd\} = 0$$

$$\Leftrightarrow (x-a)(x-c) + (y-b)(y-d) = 0 \quad (fin)$$

別解



求める円周上の点を $P(x, y)$
とにおいて、
 x と y の関係式は？
と考えましょう。

$KP \perp LP$ より、 $\langle KP \text{の傾き} \rangle \times \langle LP \text{の傾き} \rangle = -1$

$$\therefore \frac{y-b}{x-a} \times \frac{y-d}{x-c} = -1 \quad \therefore (y-b)(y-d) = -(x-a)(x-c)$$

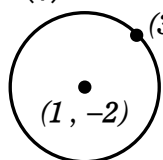
$$\therefore (x-a)(x-c) + (y-b)(y-d) = 0 \quad (fin)$$

注) 分母(0になっちゃダメ)のことを気にしないで書きました。今はとりあえず、大雑把な理解でOKです。

例題 次の円の方程式を求めよ。

- (1) 中心が点 $(1, -2)$ で、点 $(3, 2)$ を通る円。
- (2) 点 $(1, 2)$ を通り、 x 軸・ y 軸に接する円。
- (3) 直径の両端が2点 $(1, 2), (3, -2)$ である円。

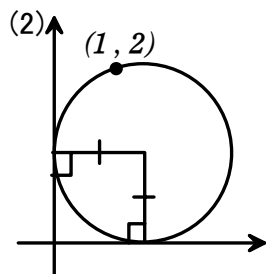
解 (1)



$$\text{半径 } r = \sqrt{(3-1)^2 + \{2 - (-2)\}^2}$$

$$= \sqrt{20} = 2\sqrt{5}$$

なので、求める円の方程式は、
 $(x-1)^2 + (y+2)^2 = 20$ (ans)



求める円の半径を r とおくと、

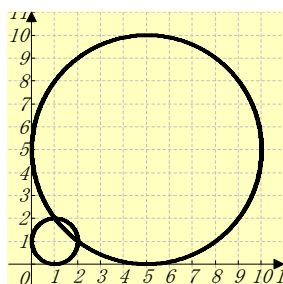
- $\left\{ \begin{array}{l} x\text{軸} \& y\text{軸に接する} \dots\dots \textcircled{1} \\ \text{点}(1, 2)\text{を通る} \dots\dots \textcircled{2} \end{array} \right.$

より、中心は (r, r) ←← 図参照。
 とかける。

よって、求める円は $(x-r)^2 + (y-r)^2 = r^2$ とかける。

$$\textcircled{2}\text{より、}(1-r)^2 + (2-r)^2 = r^2 \Leftrightarrow r^2 - 6r + 5 = 0$$

$$\Leftrightarrow (r-1)(r-5) = 0 \Leftrightarrow r = 1, 5$$

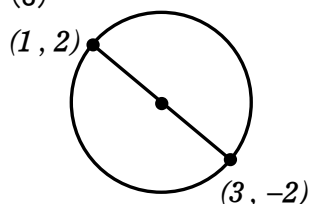


以上より、答えは

$$(x-1)^2 + (y-1)^2 = 1 \quad (\text{ans})$$

$$(x-5)^2 + (y-5)^2 = 25$$

(3)



求める円の方程式は、

$$(x-1)(x-3) + (y-2)\{y - (-2)\} = 0$$

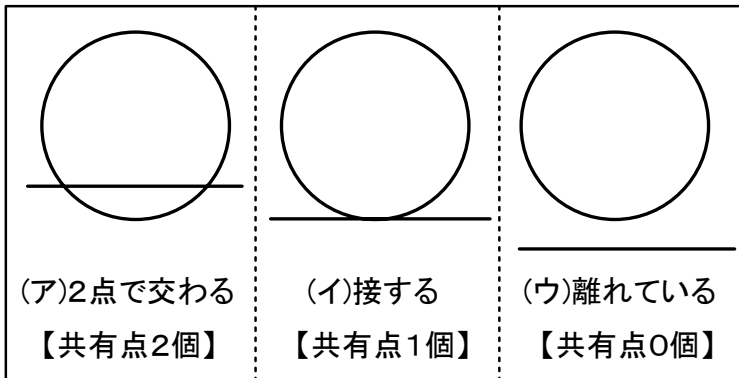
$$\Leftrightarrow x^2 + y^2 - 4x - 1 = 0 \quad (\text{ans})$$

参考)もちろん、「まず中心と半径を出して……」
 とやってもOKです。



◎さて、ここまでは[円の方程式]について、基本的理解をしてきましたね。ここからは、《円と直線の位置関係》についてのお話です。

✿円と直線の位置関係✿ ……3種類ありますね。



*円と直線の位置関係を、《数式で》調べる方法は、次の2つがあります。

(i) [円の方程式]と[直線の方程式]を連立して、2次方程式をつくり、

実数解が2個(判別式 $D > 0$) \Leftrightarrow 2点で交わる(ア)

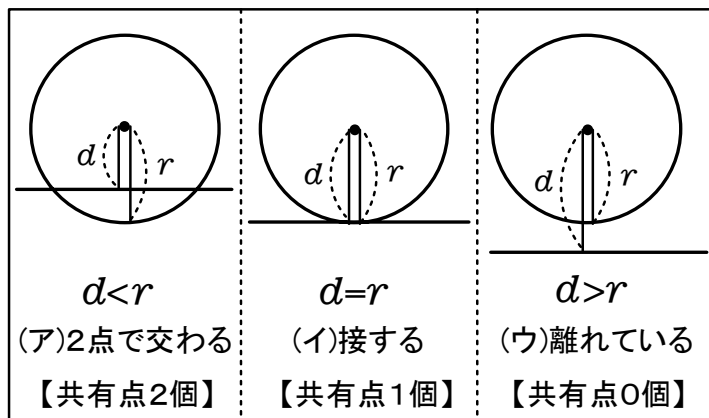
実数解が1個(重解)(判別式 $D = 0$) \Leftrightarrow 接する(イ)

実数解が0個(判別式 $D < 0$) \Leftrightarrow 離れている(ウ)

[高1でやった、放物線と直線の位置関係と同様です]
という関係を利用する。

(ii) d =[円の中心と、直線との距離]、 r =半径とおいたとき、 d と r の大小関係に着目する。

注) d は、『点と直線の距離公式』で求まるね。



例題 次の直線と円の位置関係を定数 a の値によって分類せよ。

$$y=x+a \dots\dots ①, \quad x^2+y^2-2x=0 \dots\dots ②$$

解 ①②を連立すると, $x^2+(x+a)^2-2x=0$

$$\therefore 2x^2+2(a-1)x+a^2=0 \dots\dots ③$$

③の判別式を D とおくと, $D=\{2(a-1)\}^2-4\cdot 2\cdot a^2$

①②が異なる2点で交わる $\Leftrightarrow D>0$

$$\Leftrightarrow \{2(a-1)\}^2-4\cdot 2\cdot a^2 > 0 \Leftrightarrow (a-1)^2-2a^2 > 0$$

$$\Leftrightarrow a^2+2a-1 < 0 \Leftrightarrow -1-\sqrt{2} < a < -1+\sqrt{2}$$

①②が接する $\Leftrightarrow D=0$

$$\Leftrightarrow \{2(a-1)\}^2-4\cdot 2\cdot a^2 = 0 \Leftrightarrow (a-1)^2-2a^2 = 0$$

$$\Leftrightarrow a^2+2a-1 = 0 \Leftrightarrow a = -1 \pm \sqrt{2}$$

①②が共有点をもたない $\Leftrightarrow D < 0$

$$\Leftrightarrow \{2(a-1)\}^2-4\cdot 2\cdot a^2 < 0 \Leftrightarrow (a-1)^2-2a^2 < 0$$

$$\Leftrightarrow a^2+2a-1 > 0 \Leftrightarrow a < -1-\sqrt{2}, \quad -1+\sqrt{2} < a$$

以上をまとめて,

$-1-\sqrt{2} < a < -1+\sqrt{2}$ のとき, 異なる2点で交わる。

$a = -1 \pm \sqrt{2}$ のとき, 接する。

$a < -1-\sqrt{2}, \quad -1+\sqrt{2} < a$ のとき, 共有点をもたない。(答)

別解(d と r の大小関係を使って, 解いてみましょう。)

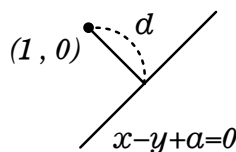
$$y=x+a \dots\dots ①, \quad x^2+y^2-2x=0 \dots\dots ②$$

$$① \Leftrightarrow x-y+a=0$$

② $\Leftrightarrow (x-1)^2+y^2=1$ 《中心 $(1, 0)$, 半径 $r=1$ 》なので,

[中心と直線①との距離]を d とおくと,

$$d = \frac{|1-0+a|}{\sqrt{1^2+(-1)^2}} = \frac{|a+1|}{\sqrt{2}}$$



したがって,

$$①②が異なる2点で交わる \Leftrightarrow d < r \Leftrightarrow \frac{|a+1|}{\sqrt{2}} < 1$$

$$\Leftrightarrow |a+1| < \sqrt{2} \Leftrightarrow -\sqrt{2} < a+1 < \sqrt{2} \Leftrightarrow -1-\sqrt{2} < a < -1+\sqrt{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\text{が接する} \Leftrightarrow d=r \Leftrightarrow \frac{|a+1|}{\sqrt{2}}=1$$

$$\Leftrightarrow |a+1|=\sqrt{2} \Leftrightarrow a+1=\pm\sqrt{2} \Leftrightarrow a=-1\pm\sqrt{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\text{が共有点をもたない} \Leftrightarrow d>r \Leftrightarrow \frac{|a+1|}{\sqrt{2}}>1$$

$$\Leftrightarrow |a+1|>\sqrt{2} \Leftrightarrow a+1<-\sqrt{2}, \sqrt{2}<a+1$$

$$\Leftrightarrow a<-1-\sqrt{2}, -1+\sqrt{2}<a \quad (\text{以下略})$$



例題 直線 $y=mx-2m$ ……① と円 $x^2+y^2=1$ ……②について、次の各問に答えよ。

(1)直線①と円②が異なる2点で交わる時、 m のとりうる値の範囲を求めよ。

(2)(1)の下で、直線①と円②の2つの交点を A, B とする。線分 AB の長さが $\sqrt{2}$ となるように、 m の値を定めよ。

解 (1) $y=mx-2m \Leftrightarrow mx-y-2m=0$ ……①

$x^2+y^2=1$ ……② [中心 $(0, 0)$, 半径 $r=1$]

[円②の中心と直線①とのキヨリ]= d とおくと、

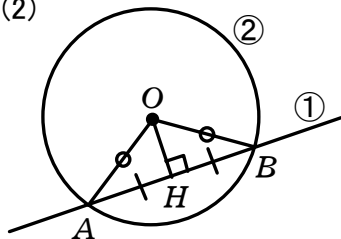
$$d=\frac{|-2m|}{\sqrt{m^2+(-1)^2}}=\frac{|2m|}{\sqrt{m^2+1}} \quad \text{……(ア)}$$

円②と直線①が異なる2点で交わる条件は、

$$d<r \Leftrightarrow \frac{|2m|}{\sqrt{m^2+1}}<1 \Leftrightarrow |2m|<\sqrt{m^2+1}$$

$$\Leftrightarrow 4m^2<m^2+1 \Leftrightarrow m^2<\frac{1}{3} \Leftrightarrow -\frac{1}{\sqrt{3}}<m<\frac{1}{\sqrt{3}} \quad (\text{ans})$$

(2)



問題文($AB=\sqrt{2}$)より

$$AH=\frac{1}{2}AB=\frac{\sqrt{2}}{2}$$

左図の直角三角形 OAH に着目すると、

(図のように点 H をおく。)

$$OA^2=OH^2+AH^2 \Leftrightarrow 1^2=OH^2+\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^2$$

$$\Leftrightarrow OH^2=\frac{1}{2} \quad \therefore OH=\sqrt{\frac{1}{2}}=\frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{……(イ)}$$

(ア), (イ)より

$$\frac{|2m|}{\sqrt{m^2+1}} = \frac{1}{\sqrt{2}} \Leftrightarrow \sqrt{2}|2m| = \sqrt{m^2+1}$$

$$\Leftrightarrow 8m^2 = m^2 + 1 \Leftrightarrow m^2 = \frac{1}{7} \Leftrightarrow m = \pm \frac{1}{\sqrt{7}} \quad (\text{ans})$$

このように

☆弦の長さ(円と直線が2点で交わる場合)
直角三角形に着目して, 三平方の定理 [原則]

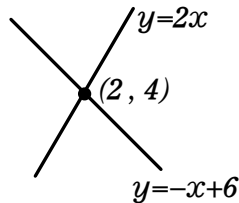
☆定点通過 (例:)

直線 $(2a+1)x + (1-a)y - 6 = 0$

(a の値によって, いろんな直線になる。)

$$\Leftrightarrow (x+y-6) + a(2x-y) = 0 \quad \dots\dots ①$$

に対して, $\begin{cases} x+y-6=0 & \dots\dots ② \\ 2x-y=0 & \dots\dots ③ \end{cases}$



を考える。

①は(必ず), ②③の交点(2, 4)を通る!

《定点通過》

例題 xy 平面上の円 $x^2 + y^2 - 4x + (2-a)y + a - 3 = 0 \dots\dots ①$ は
 a の値に関わらず, 異なる2定点を通る。この2定点を A, B
とすると, 次の各問に答えよ。ただし, $a > 0$,
[点 A の x 座標] < [点 B の x 座標] とする。

- (1) 2点 A, B の座標を求めよ。
- (2) 円①の半径が $2\sqrt{2}$ となるように, a の値を定めよ。
- (3) (2)の下で, 円①と直線 AB によって囲まれる図形(中心を含む方)の面積を求めよ。

解(1)

$$\text{円 } x^2 + y^2 - 4x + (2-a)y + a - 3 = 0 \quad \dots\dots ①$$

$$\Leftrightarrow (x^2 + y^2 - 4x + 2y - 3) + a(1-y) = 0 \quad \dots\dots ①$$

に対し,

$$\begin{cases} x^2 + y^2 - 4x + 2y - 3 = 0 & \dots\dots ②(\text{円}) \\ 1 - y = 0 & \dots\dots ③(\text{直線}) \end{cases} \quad \text{を考える。}$$

①は(必ず), ②③の交点(0, 1), (4, 1)を通る!

参考)連立方程式②③の解き方

③より $y=1$ これを②に代入して、 $x^2-4x=0$

$$\Leftrightarrow x(x-4)=0 \Leftrightarrow x=0, 4$$

よって $(x, y)=(0, 1), (4, 1)$

したがって、求める定点は $A(0, 1), B(4, 1)$ (ans)

(2)

$$\textcircled{1} \Leftrightarrow (x-2)^2 + \left(y - \frac{a-2}{2}\right)^2 = \frac{a^2-8a+32}{4} \dots\dots\textcircled{1}'$$

(x, y それぞれについて平方完成した。)

《ここで、 $a^2-8a+32=(a-4)^2+16 > 0$ (All. a) に注意。》

よって①の半径は $\sqrt{\frac{a^2-8a+32}{4}}$

問題文より、これが $2\sqrt{2}$ に等しいので、

$$\sqrt{\frac{a^2-8a+32}{4}} = 2\sqrt{2} \Leftrightarrow \frac{a^2-8a+32}{4} = 8$$

$$\Leftrightarrow a^2-8a=0 \Leftrightarrow a(a-8)=0 \Leftrightarrow a=0, 8$$

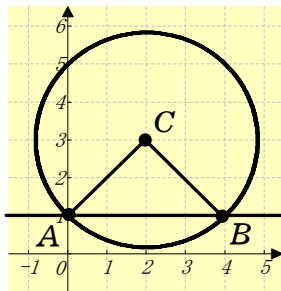
$\therefore a=8(>0)$ (ans)

(3) $a=8$ のとき

円①の中心 C は(①' 見て) $\left(2, \frac{8-2}{2}\right) \therefore C(2, 3)$

半径は(問題文(2)見て) $2\sqrt{2}$

求める面積は、図の斜線部。



$$CA=CB=2\sqrt{2} \text{ (半径)}$$

$$AB=4$$

より、 $\triangle ABC$ は、 45° 定木の形。

$$(\because \angle ACB=90^\circ)$$

よって、求める面積は、

$$[\text{大きい扇形} CAB] + [\triangle ABC]$$

$$= \pi \times (2\sqrt{2})^2 \times \frac{270^\circ}{360^\circ} + \frac{1}{2}(2\sqrt{2})^2$$

$$= 6\pi + 4 \text{ (ans)}$$



演習 次の各問に答えよ。

(1) xy 平面上の3点 $(4, 2)$, $(5, 1)$, $(6, -2)$ を通る円の方程式を求めよ。

(2) xy 平面上の2点 $(-2, 5)$, $(4, -1)$ が直径の両端である円の方程式を求めよ。

(3) 中心が直線 $2x - y + 3 = 0$ 上にあつて、 x 軸・ y 軸にともに接する円の方程式を求めよ。